

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：重症児・者福祉医療施設ソレイユ 川崎	種別：児童発達支援・放課後等デイサー ビス
代表者氏名：施設長 江川 文誠	定員（利用人数）： 5名
所在地：〒215-0001 川崎市麻生区細山1203番地	
TEL：044-959-3003	ホームページ： http://www.misasakai.or.jp/ shisetsu/soleilkawasaki.php
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2005年5月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 三條会	
職員数	常勤職員： 4名 非常勤職員 1名
専門職員	（専門職の名称） 名 生活支援員 1名
	児童発達支援管理責任者 1名 理学療法士 1名
	看護師・准看護師 2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等） 食堂・浴室

③ 理念・基本方針

私たちは 1.あなたや家族の持つ痛み、苦しみに寄り添うこと 2.あなたの気持ち表情を理解する努力を惜みず、その意思を尊重すること 3.家族とのかかわりを持ち、あなたと家族を含めた幸福を支えること 4.日常生活の中に肉体的苦痛や心理的負担を持ち込まないこと 5.全ての係わりのある人が良心に従って意見をいいあえることを大切にします

④ 施設・事業所の特徴的な取組

知的障害・身体障害の重複障害をお持ちの方で、医療的ケアが必要な方を中心に受け入れています。多機能事業所として生活介護と一体的に事業を行っており、未就学児から成人まで幅広い年齢層のグループで「療育活動」を行っています。見る、聞く、体験することを重視し、楽しく安心して過ごせる環境を提供しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 8月 8日（契約日） ～ 2023年 4月 14日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和元年度）

⑥ 総評

◇ 特長や今後期待される点
特長
事業所の特性を活かした取り組みによって利用者の在宅支援を推進している
事業所としての特性を活かし、医療職、リハビリ職、介護職、看護職など多職種間で連携を図り、利用者への観察力を強化し高いアセスメント能力によって、利用者のニーズを適切に捉えることができている。また、基本的な生活支援技術、個別性に応じた支援および個別支援計画書作成などの業務効率化を図ることもできている。在宅支

援を推進するため、併設事業所で外来診療および外来リハビリテーションを実施し、また関連行政機関や医療機関との連携も強化している。

利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援に力を入れて取り組んでいる

児童発達支援では、個々の発達の機微を見落とさないよう職員一人ひとりが心がけており、すくい取って支援につなげている。小さな出来事も職員間で情報共有していくことで本人が楽しいことを増やせるように努めている。

放課後デイサービスにおいても利用者への声掛けを大切にしており、表情やその変化、また声やサインから気持ちを読み取るように努め、情報共有している。生活支援デイサービスの職員からも声をかけ覚えてもらえるようにしている。放課後デイから生活支援デイに移行する利用者も見られており、来年度は受け入れ予定がある。

地域交流を目的とした施設の活用を行い地域に根付いた療養介護施設を目指している

ソレイユ祭りやCAMPキッズ（多目的施設）を使用したイベントやみらい食堂、事業所の専門性を活かした出前講座などを定期的で開催しており、地域交流を目的とした施設の活用を行っている。そのほか、自治会の祭りへの施設利用者の参加や、年二回自治会との連携で消防訓練への参加を実施し地域との交流に取り組んでいる。地域の方々と一緒にできる活動を模索し、かつ事業所の活動をより広く紹介して障害者福祉の普及啓発の貢献に努めている。

今後期待される点

福祉サービス選択に必要な情報提供について

ソレイユ川崎専用のホームページでは 施設概要、事業内容、アクセスなどが記され、利用の案内などが明示されている。事業内容は 重症心身障害施設、重症心身障害児短期入所、通園の事業区分で構成されており、それぞれの対象者が簡単に説明されているが、情報量は少ないため、利用希望者や地域に向けて、事業所の活動内容などをさらにわかりやすく、また、広く情報発信するよう期待したい。

個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等について

利用者の当施設利用は他の事業との併用であるため、担当者会議の実施をしたいが進んでいないことを課題としている。家庭から得られる情報だけでなく、他事業との連携によって、さらに支援内容を深めていくことを目指している。また、3年目となり活動内容についても、もっとできることがあるのではと考えおり、放課後等デイサービスではプログラムを工夫し短い時間で楽しんだり休んだりできるようにすることも検討している。生活介護への移行もふまえた活動や計画をしていくことで在宅の支えとなることを目指している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審して、事業所の強みや改善点、今後の課題等について再認識することができたと感じている。

また、日頃の業務を振り返ることができ、見落としていた点、新たに取り組まなければならない点など、様々なことを確認できた。

結果を今一度振り返り、いただいたご意見やご指導については、今後、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様にフィードバックできるように取り組んでいきたいと考えている。

引き続き、重症心身障害児（者）、特に医療的ケアの必要な方を中心に受け入れていく施設としての役割を再認識し、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様方へのよりよい

サービスの提供に向け努力する所存である。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり